



3月11日で東日本大震災から10年を迎えます。被災地の復興は進んでいる一方、時間の経過とともに関心は薄れ、震災や原発事故の風化が懸念されています。コープは「忘れない、伝える、続ける、つなげる」を合言葉にさまざまな復興支援を続けてきました。最終回となる今回は、これまでコープみらい・コープデリグループでの被災地支援の取り組みと、9月からお知らせしてきた自然災害への備えのポイントをお伝えします。

2021年3月11日で東日本大震災から10年

忘れない、伝える、続ける、つなげる

コープみらい・コープデリグループは組合員の皆さんとともに、東日本大震災発生直後から被災地・被災された方々に寄り添いながら支援を続けてきました

がれき撤去・泥出し・掃除

津波により町中や建物の中までがれきや押し寄せました。ボランティア支援の中で、被災地にあるコープの店舗での泥出しや商品棚を洗うなど、生活の拠点となる店舗の早期再開にも協力しました。



田畑の残留放射性物質調査

原発事故の風評被害を受けて、福島県の放射性物質を1区画ずつ計測し、分布状況に応じた作付けなどの対策につなげる「土壌スクリーニングプロジェクト」を実施。コープデリグループ全体で2013年9月から2014年5月までに延べ169人の職員が参加しました。



「忘れない」の想いを込めて

震災当初、被災されたメーカーや生産者にコープみらい組合員からの応援メッセージや寄せ書きを届けました。また、被災された方々に向けて「忘れない、これからもいっしょにがんばろう」の想いを込め、組合員の皆さんが作成した「七夕カード」「クリスマスカード」などを2012年から2017年にかけてお送りしました。



ふれあい喫茶(サロンの)支援

仮設住宅や復興公営住宅で住民同士が、お茶やおしゃべりをしてほっとできる交流の場です。2016年から2020年まで、組合員より毎月お菓子と応援メッセージを届ける活動を続けました。サロンからもありがたいご声の声をいただき、被災地とのつながりを感じることができました。



2018年3月撮影

子どもたちが集う場・学び場の支援

被災地の岩手県山田町では図書館も放課後に集まれる場もなくなっていました。「山田町ソニタハウス」は子どもたちが放課後に集まり、話をしたり勉強したりできる場として作られました。コープはNPOや大学と連携し、ソニタハウスの運営を支援しました。復興でさまざまな「集いの場」ができれば、2020年8月をもってその役目を終えました。



首都圏で避難生活をしている方々の交流

首都圏のさまざまな町に分かれて避難生活をしている方々が集まる交流イベントにも協力しました。イベントでは思惟ぬれ再会も見られました。2019年以降は縮小して開催しています。(2020年はコロナ禍で中止となりました)



「東日本大震災復興支援募金」から「ふくしま復興応援募金」へ

2011年度から2019年度までにコープデリグループでは組合員の皆さんから、累計約5億698万円の募金をお寄せいただきました。お寄せいただいた募金は、避難生活をされている方々への支援や福島・宮城・岩手の生協が取り組む復興支援活動などに活用させていただきました。ご協力ありがとうございました。しかし、いまだ避難を余儀なくされている方々の生活再建を含め、復興への歩みを着実に進めるためには継続した支援が必要です。これまでの東日本大震災復興支援募金の想いを引き継ぎ、原発事故の影響が残る福島の復興を継続的に応援するため、2020年度から「ふくしま復興応援募金」に取り組みしています。引き続き、ご協力をお願いいたします。

■宅配

OCR注文書・eフレックスにて下記の申込番号で承ります。

| | | | |
|--------|-----------|--------|---------------------------|
| 286443 | 1口 100円 | 287024 | 1口 10ポイント |
| 286605 | 1口 1,000円 | 287032 | 1口 100ポイント |
| | | 287041 | 全ポイント (数量欄に1口をご記入ください) |

■店舗

レジまたは募金箱にて承ります。レジでは、現金・ポイント(1ポイント=1円)での募金を受け付けています。レジの募金札をレジ担当者にお渡しください。

「東京インフォメーション」では9/7号から6回にわたり、自然災害への備えについて紹介してきました。それぞれの回で掲載したポイントをご紹介します。



9/7号 ★備えについて考えよう★

「物を備える際のポイント」と、災害が起こったときにどのように連絡を取り合おうか「コミュニケーションの備え」についてご紹介しました。

10/5号 ★地域のハザードマップを見てみよう★

台風や大雨などに見舞われたとき、自宅地域や周りの浸水リスクを知っておくことはとても大切です。ハザードマップを見るときはポイントと、家中への浸水被害を防ぐ工夫についてご紹介しました。

11/16号 ★停電への備えを見直してみよう★

地震や台風時に突然停電してしまつたら…。停電時の行動や、家にあるもので手づくりできるランプ・あると便利なポータブル電源のご紹介をしました。

1/11号 ★阪神・淡路大震災から学ぶ★

阪神・淡路大震災から26年。災害時の記録写真から学ぶことも多くあります。災害用備蓄におすすめの商品や、コロナ禍で避難所生活をするようになったときに大切にしたいこともご紹介しています。

1/25号 ★冬季避難の備えと注意★

自然災害は季節を選んではくれません。冬季には「寒さ」も大敵。段ボールなどの身近なもので寒さを防ぐ工夫をご紹介しました。

2/22号 ★東日本大震災から学ぶ★

東日本大震災では、未曾有の津波により大きな被害がもたらされました。この回では、津波から身を守るポイントについてご紹介しました。

東日本大震災から10年が経つても自然災害は各所で起こり続けています。どのような備えが必要なのか、それは家族の状況や地域の環境によりそれぞれ異なります。自分たちにはどのような備えが必要か、万が一災害が起こったらどうするのか、さまざまな情報を参考に、家族と定期的に話し合っておくことがとても大切です。ぜひ一度、備えを見直してみてください。



東京インフォメーションでご紹介した上記の記事は、ホームページよりご覧いただけます。



「編集後記」～受け継がれる生協の「助け合い」の心～

日本最初の生活協同組合を立ち上げた日本の生協の父「賈川豊彦」は、1923年に発生した関東大震災の際、神戸から単身船で東京に入り、「災害ボランティアセンター」のような支援拠点を立ち上げ被災者支援活動に取り組まれました。被災地に寄り添い、今何が必要とされているかを探りながら支援をする「助け合い」の心は、現在の生協にも受け継がれています。被災された方々のニーズは置かれた立場によってそれぞれ異なり日々変化しています。また、きめ細やかな対応をされている地域の支援者を支えていくことも求められています。コープみらいはこれからも、被災地・被災された方々に寄り添いながら支援の取り組みを続けていきます。